

Masters

president, owner, director, boss, leader, captain.....

マスターズ——日本経済の未来を創る経営者たち

特別取材企画

地域に生きる

企業は人なり～その人物像を探る

技を極めた匠

健やかな日々を支える医療

心に寄り添う介護・福祉

EXPERT'S EYE

明日を照らす教育現場

社寺聴聞

逸店探訪

2025. 4
April
Vol.43 No.522

巻頭特集

生誕百周年に寄せて 三島由紀夫を振り返る

Current Topics/Column/editor's pick up

新たな技術革新の波 移動に革命をもたらすMaaS、
多方面での活躍が期待できる 微生物の持つ優れた力

The Call of Muse. NIWA——京都駅ビル東広場リニューアルプロジェクト

ウルグアイ東方共和国 大統領 ヤマンドゥ・オルシ

Key
Person



和来(株) 代表取締役

山口 秀樹

薬局のあるべき姿とは、薬剤師の役割とは、どういったものなのか。薬の専門家として、用法や効能を正しく伝え、渡す。それを大前提としながら山口社長は、もっと患者に親身になりたいと考える。たとえ本来の業務外のことでも、自分にできることはサポートしたい。病気や薬と関係ない内容でもコミュニケーションを取り安心してほしい。「困っている人を何とかしてあげたい」——それが、社長の根本にある思いだ。職業としての義務や使命を越えて、徹底して寄り添う。そんな薬剤師が、社長の目指す姿だ。

(対談記事は 84 ~ 85 頁に掲載)

「困っている患者様に、
寄り添える薬剤師でありたい」

添



代表取締役

山口 秀樹

北海道札幌市出身。大学で薬学を学び、薬剤師資格を取得。その後『海上自衛隊幹部候補生学校』へ入り、自衛隊で長年活動してきた。40歳を目前にして自衛隊を退官し、薬剤師として地域医療に尽力するように。そして在宅医療を行うべく独立し、『和来』を設立し『ゆう薬局』を開業した。



海上自衛隊での勤務を経て 横浜市で調剤薬局をオープン

—まずは、山口社長の歩みからお聞かせください。

大学で薬学を学び、卒業後は大手企業に内定が決まっていた。しかし先輩から『海上自衛隊幹部候補生学校』に入るように誘われまして。予定を変更し、そちらへの願書を書いたんですよ（笑）。—なんと、以前は自衛隊にいらっやいましたか。

大変厳しい世界で、逃げ出してしまう人もいっぱいいましたよ。私は薬剤師として入り、40歳手前で辞めるころには衛生隊長を務めていました。ちなみに余談ですが、災害などがあると現場で医師や看護師がベストを着ているのを、

ニュースなどで見たことはありませんか。実は、自衛官時代に私が必要な物をポケットに入れて持って行けるベストを作り使っていたんですよ。それをきっかけに広まっていったはずですよ。

—それはすごいですね！自衛官を辞められて、薬局を立ち上げようと思われたのは、どうしてですか。

衛生隊員としての仕事もちろんやり甲斐がありましたが、地域医療に貢献したいとの思いが強くなったんです。ここ横浜市を選んだのは、横須賀基地で働いていた経験から馴染みがあったこと、良い場所に空き物件が出たことなど、好条件が重なったからですね。当初は在宅医療専門の薬局として始めたんです。処方箋に基づいて調剤しご自宅にお薬をお届けする、「薬剤師訪問サービス」と呼ば

れるものですね。

—順調にいきましたか。

当時は在宅医療に特化した薬局は珍しかったので、まず認知度を上げることに苦労しました。近隣のドクターに挨拶回りをして認知していただくことからのスタートです。そのうち隣にクリニックができた関係もあり、直接患者様が来られるようになって。在宅専門ですと追い返すわけにはいきませんから、外来患者様も受け入れるようになり、現在に至っています。

コミュニケーションを大切に 患者様の役に立ちたい

—対応される地域は横浜市ですか。

横浜市だけでなく近隣地域にも対応

ロゴマークに思いを込めて

山口社長はもともと、「UW」という言葉を屋号に入れたと考えていたようだ。「UW」は国際信号旗で「貴船の安全航海を祈る」といった意味がある。出航しようとしている船や、海上で仲間の船と行き違う時などに、よくこの旗を振り安全を願うという。その「U」と「W」の旗は、『ゆう薬局』のロゴマークに碇のマークとともに描かれている。元海上自衛隊員である社長の、体調を崩している患者への気持ちが、こうしたかたちで表現されているのだ。

『ゆう薬局』では無菌調剤室を設け、地域の薬局としての役割を果たしている。特定の注射剤調剤などにおいては、感染予防や衛生管理などの観点から無菌調剤が求められる。終末期医療を含めた在宅医療においても無菌調剤の必要性は高まっており、同薬局はそうした需要にも応えられるのだ。「UW」のロゴに込められた社長の思いは、このような充実した体制によって具体化されている。今後も地域住民の健康を守り、役割を果たし続けていこう。

在宅医療に注力する調剤薬局として 患者の心身の健康に全力で寄り添う

横浜市の在宅医療に注力しながら、外来患者も受け入れ地域の信頼を得ている『ゆう薬局』。柔軟な対応力と山口社長の温かな人柄で、訪れた患者の心身を元気づけている。また、無菌調剤室を併設するなど、一般的な薬局とは一線を画する。同薬局をタレントのつまみ枝豆氏が訪問し、社長にインタビューを行った。



和来 株式会社/ゆう薬局

神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩井町 123-2
保土ヶ谷駅前ハイツ第2号棟 第102号室
URL : <https://uwpharmacy.jp>

し、一番遠いところでは茅ヶ崎市の患者様がいらっしゃいます。お薬を必要とされる方は苦しい思いや不安を抱えておられるので、「遠いから持って行けない」なんて言えませんか。外来の方にも気軽に入ってほしいと思っていて、道を尋ねるためだけに入ってこられる方もいるんですよ。そうして病気のこと以外でも相談できるのが、病院とは違った薬局の意義の一つだと考えています。

——確かに、お医者さんに言いづらいことでも薬剤師さんになら言える、ということもあると思います。

私が子どものころ、薬局の方が近所の子どもたちに「飯食ったか?」「元気か?」など、気さくに声かけしている様子をよく目にしました。私も、ただ薬を渡すだけでなく、そうした日常的なコミュニケーションを取って寄り添いたい。昭和的な考えだと感じられる方もいるかもしれませんが、会話をしながら安心を提供できる存在でありたいと思っています。

——何気ない雑談から、患者さんの体調や生活習慣を知るヒントが生まれることもあるでしょうね。

おっしゃる通りです。薬の説明を正しく行うのも、もちろん大切です。しかしそれは当たり前で、雑談のような会話のほうこそがキーになることも、多々あると思うんですよ。こうしたアナログな部分を大事にしながらも、時代に沿って新

たなことも学び、情報提供できるようにしたいと思っています。

——最近ではAIやICTといった言葉もすっかり一般化し、技術が進化しているのを感じます。

最新のものは難しい印象を抱かれがちですが、上手く取り入れて予防に力を入れてほしいですね。例えばスマートウォッチは、心拍異常を感知して心不全の予兆などを知らせてくれます。ストレスレベルを判断してくれる機能もありますね。年配の方はスマートウォッチなどを着けたがりませんが、活用すればもっと健康に暮らせるでしょう。そういったこともお話ししていきたいです。

——とても考え方が柔軟だと感じます。そして何より、社長の温かく優しいお人柄は人に安心感を与えますよ。

ありがとうございます。困っている人がいれば何とかしてあげたいという思いで、これまでこの仕事を続けてきました。患者様の最期に触れる瞬間もありますが、少しでも笑顔になってもらえるような、良い時間を提供できる存在でありたいと思っています。

——それでは最後に、今後の夢をお聞かせください。

ヘルスケアという点から、街作りに貢献できるようになりたいです。「美味しいご飯が食べたい」「楽しい時間を過ごしたい」。それらは全て、健康があってこそ実現できるものですね。この地域は『ゆう薬局』があるから安心して暮らせる——そう言っていただけのように尽力し、健康な街作りに寄与したいです。

(取材/2025年1月)

After the Interview

つまみ枝豆

「山口社長は自衛官時代に、官庁とのやり取りや提出資料の作成なども行っていたそうです。そして一般的な医療関係者ではできない特殊な経験をされたから、多くの学びを得て視野の広さなどにつながったのでしょうか。異色の経歴が薬局の特色や社長ご自身の魅力を生んでいるのだと感じました。今後も地域密着で、温かな薬局づくりを続けていただきたいです」

